

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100442		
法人名	社会福祉法人 阿武福祉会		
事業所名	グループホーム であい		
所在地	山口県阿武郡阿武町大字木与10039番地の5		
自己評価作成日	平成29年11月25日	評価結果市町受理日	平成30年5月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりのニーズをとらえ、ケアにつなげている ・家庭的で明るく、和気あいあいとした雰囲気の中で生活できている ・外出が多く、気分転換ができる ・地域から少し離れた場所にあるため、地域の方が気軽に訪れるという機会は少ないが、こちらから出向き、地域との交流や近所の人、知人とのつながりが途切れないようにしている ・手作りの装飾品で季節感を出している ・一人ひとりの役割や生きがいを考えて実践し、法人や地域のまつりで発表したり、手芸品を販売するなど、実績につながる活動をしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の関わりの中で利用者ひとり一人に寄り添われ、聞き取られた言葉や行動を日常記録簿に記録され、1ヶ月毎にまとめたケアプラン経過表を基に職員全員で利用者一人ひとりを理解されて、思いや意向の把握に努められ、日々の支援に活かしておられます。毎月発行する事業所だよりを、地元地区に全戸配付されている他、家族へは事業所だよりと家族へのおしらせを直接手渡されているなど、馴染みの人と場所との関係が途切れないように工夫しておられます。日常的に食材の買い物や道の駅巡り、季節の花見、紅葉狩りや梨狩り、自宅周辺ドライブ等の支援をしておられる他、普段は行けないような場所へ、家族や地元婦人会のボランティアの協力を得られて、春(大平山)と秋(太寧寺)のバス旅行として利用者全員で出かけておられるなど、利用者一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、意識するようにしている。新規職員採用時には、採用者に説明するとともに、全員で再確認をしている。職員会議やカンファレンスの際に理念に立ち返り、プランに生かしている。日常生活の中でも、常に理念に基づいた対応を実践している	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して、月1回の職員会議やカンファレンスで話し合って確認し、理念を共有して実践につなげている。つなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出身地域の敬老会、運動会、祭りなどに積極的に参加している。法人主催の祭りには、広く地域に参加を呼びかけ、送迎なども行なって、気軽に来訪してもらえるような機会を作っている。日常の買物、墓参り、外出など、地元を意識して実施し、懐かしい場所や人との交流を図っている。法人主催の祭りや地域の祭りに、利用者、職員と共同制作したバッグや袋、鍋つかみなどを出品し、利用者も一緒に販売を行ないながら、地域の人と交流をしている。地元の方のボランティア、家族のボランティアを受け入れ、日常的な活動の他、秋の旅行、地域の祭りでの付き添いや手芸品販売などをしてもらうことで、つながりが途切れないようにしている	利用者は、地元(3地区)の敬老会や運動会、祭りに参加している。法人主催の「光と恵みの里まつり」や盆踊りに、町の無線を活用して地域の人に呼びかけ、送迎の車を準備して、多くの住民の参加を得ている。「光と恵みの里まつり」や町の「さんさんふる里祭り」では、利用者の作品展示コーナーや販売員として地域ボランティアの協力を得て利用者と職員が協同制作したバッグや袋、鍋つかみ等を販売し地域の人と交流している。盆踊りに、中学生の協力参加がある。法人の運動会に、地元の保育園児の参加がありふれあっている。事業所だよりを毎月、地元1地区(910戸)へ戸別配付している他、利用者の地元2地区の家族へ「家族へのおしらせ」と合わせて手渡しをしている。ボランティア(車イス介助、手芸品作成手伝い等)の来訪があり交流している。近くのスーパーや道の駅に買い物に出かけ、地域の人と挨拶を交わしたり、知人から野菜や果物の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時には、認知症についての説明を行なったり、毎月発行しているであい広報の中にも、認知症に関する情報を載せるなどして、地域の人に発信している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し、改善に取り組んでいる。運営推進会の開催回数については、2ヶ月に1回行なうことができています。参加メンバーについては、地元自治会に加えて、婦人会にもお願いし、積極的な参加をしてもらっている。初期対応の研修会についても、回数を増やして実施し、知識や技術の習得に努めている	主任が評価の意義について説明し、全職員に自己評価を行うための書類を配付し記入の後、主任がまとめている。まとめたものを全職員に配付し共有している。前回の評価結果を受けて話し合い、目標達成計画を作成して、運営推進会議の参加メンバーの拡大や応急手当や初期対応の訓練を職員会議を活用して実施しているなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告を行なっている。ボランティアについての話をした際、「いつ来られても受け入れ態勢ができていと言われている、実際には、何も無い時に来ることは敷居が高く難しい。具体的に来てもらいたい日を示してもらおうと、訪問しやすい」との意見をいただき、その後具体的なお願いをすることで、ボランティアの受け入れや、利用者との交流につながり、サービス向上に活かすことができた	新たにメンバー2名を加えて、会議は年6回開催している。利用者状況、活動状況や計画、外部評価の結果について報告し話し合っている。議題によってメンバーを追加するなど臨機応変に対応している。ボランティアの来訪が少ないことについて意見を求め、具体的な援助依頼と訪問日時を示すことで家族ボランティアと地域の婦人会ボランティアの来訪が実現しているなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際の情報交換の他、町主催の会議等には、管理者が出席して協力関係を築くようにしている	町担当者とは、運絵う推進会議時に情報交換をして、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、利用者の状況などで相談したり情報交換をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や建物に自由に出入りできる。ベッド柵をしない、玄関の施錠は一般家庭と同じように行なうなど、拘束のないケアに取り組んでいる。認知症の勉強会の中で、対象となる具体的な行為や言葉による拘束のことについても話しているが、外に出て行く利用者に対して、言葉による制止をしてしまうことがある	職員は内部研修で学び、正しく理解して、身体拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいたら主任、職員間で注意合っている。玄関は施錠せず、外に出たい利用者とは職員が一緒に出かけている。法人の同一敷地内の他施設の職員の見守りもある。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する共通認識ができており、虐待が行われたり、それを見過ごしたりすることはない。虐待防止法についても、勉強会で学ぶ機会をもっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内の研修で、権利擁護に関する勉強会を行なったが、職員全員の理解には至っていない。個々に対する活用に関しては事例がない		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行なっている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制を定め、事業所内に掲示している。運営推進会議の案内の際などに、意見を求める機会をもっているが、具体的な意見はいただいている	苦情受付体制や対応について、契約時に家族に説明を行っている。家族の面会時や運営推進会議時、行事参加時で、家族の意見や要望を聞いている。ケアプラン作成時や運営推進会議の案内時に意見や要望を聞く機会を設けている。ケアについての要望はその都度対応している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の際に、意見を聞く機会があるが、運営に関する意見や提案はあまり出ることがない。日常業務の中で要望があった場合は、主任を通じて管理者に提案している。具体的な内容としては、玄関へのスロープの取り付け、居間の洗面台への照明の取り付けなどを提案	月1回の職員会議や日頃の業務のなかで職員の意見や要望を聞く機会を設けている。係りを担当制にし、意見や提案が出しやすいようにしている。職員の意見や要望については主任から管理者へ提案している。車イス異動がしやすいように玄関のスロープの取り付け、睡眠前の入れ歯の管理がしやすいような居室の洗面台の照明の取り付けなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務に適切な評価をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修の他に、法人と阿武町役場、社協などが合同で行なう研修、阿武町が主導の在宅医療・介護連携推進会議(三部会)の行なう研修にも参加している。外部研修は、職員に情報を伝え、希望がある場合は、優先的に受講できるような体制はとっているが、職員からの希望はない。経験年数や研修の内容で参加者を判断し、業務の一環として参加している。資格取得や更新研修などに対する勤務調整や費用負担など、支援を行なっている	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の希望と段階に応じて、勤務の一環として研修の機会を提供している。サービス評価地域推進会議や新人研修、ケアマネ研修に参加している。受講後は復命や復伝を行い情報の共有を図っている。内部研修は、毎月計画にそって、職員が講師を務め、介護保険、記録とは、看取りケア、緊急時の対応(救急蘇生法・窒息時の対応・脱水)、感染症(インフルエンザ・ノロウイルス)、ケアプラン、接遇、権利擁護等を全員参加で行っている。法人研修は、感染症について、法人・役場・社協が実施(ひとつ屋根の会)の研修は腰痛予防を学んでいる。資格取得や資格更新研修は勤務調整をし支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとは、法人の祭りを通じて、作品の合同展示、手芸品や栽培した野菜の販売、喫茶コーナーの開設など、合同で行なっている。職員や利用者の交流をはじめ、お互いに良い所は参考にするなど、サービスの向上につなげている。外部研修の時に、同業者の話を聞いたりする機会はあるが、ネットワークづくりには至っていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年の評価以降、新規の入居がないが、本人の不安や困りごと、要望などは、普段の生活の様子や会話、表情などから読み取るようにしており、安心を確保するための関係づくりに努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	昨年の評価以降、新規の入居がないが、面会時に情報交換をするなど、良い関係づくりに努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	昨年の評価以降、新規の入居なし		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者全体の認知症が重度化している中、少しでもできることはしてもらったり、一緒に時間を過ごすなど、日々努力をしている。職員も一緒に楽しむことを大切にしている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に外出や食事ができるよう、連携を取り合ったり、行事の際には参加をお願いし、家族との絆を大切にしている。また、地域のお祭りに出かける際には、家族ボランティアとして参加をしてもらい、見守りや車椅子の操作、手芸品販売の手伝いをしてもらうなど、共に支える関係を築いている。歯科受診などの対応もしてもらっている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、町内の商店、墓参り、祭りや敬老会、地区の運動会などに参加し、地域の方との交流を図っている。空き家になっている自宅への訪問、利用をし、近所の方と交流する機会をもっている。	家族の面会、親戚の人の来訪があるほか、電話や携帯電話の取り次ぎ、年賀状での交流の支援をしている。出身地の祭りや敬老会、運動会への参加、空き家になっている自宅での茶話会等懐かしい人との交流の他、家族の協力を得て外出や外食、一時帰宅、墓参り、馴染みの美容院の利用、食材の買い物に職員と一緒に近くのスーパーに週2回通っているなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の重度化に伴い、他人に関心を示す人が少なくなっている。職員が間に入って会話の橋渡しをしても、すぐに途切れてしまうなど、関わりが希薄になってきている。そんな中でも、手芸や工作などの実施時は、皆で同じテーブルを囲み、会話のきっかけを作ったり、アルバムを開いて一緒に見ながら話をするなど、利用者同士の関わりをもつよう努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実例なし		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から、本人が思っていること、希望していることを把握するようにし、日常記録簿に記録しているが、困難な場合の方が多い。本人の行動などから、できるだけ思いを汲み取るようにしている	日々の関わりの中で、利用者ひとり一人に寄り添い、聞き取った言葉や行動を「日常記録簿」「申し送りノート」に記録し、1ヶ月毎にまとめた「ケアプラン経過表」に基づいてケアカンファレンスで職員全員がひとり一人を理解し、思いや意向の把握に努め支援に活かしている。困難な場合は、利用者の発言や言動、表情、態度から推し量り、職員間で話し合っ意向を推し量って、本人本位に支援している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報提供をしていただき、把握に努めるとともに、本人と昔のことを回想しながら、どのような暮らしをしてきたか話す機会をもっている			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録簿、申し送りノート、ケアプラン経過表などで、毎日の状態を把握している			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活における課題解決や、より良い暮らしの実現に向けて、職員間で話し合うとともに、他職種の意見も取り入れながら、介護計画を立てている。本人の意向の確認は難しい場合がほとんどで、それまで積み重ねてきた情報の中から、現状に則した物を選択している。家族の意向はなかなか具体的な物が少ないが、取り入れるように努めている	毎月、主任を中心に全職員でカンファレンスを開催し、日常記録簿を基に1カ月毎にまとめたケアプラン経過表を活用して利用者の思いや状態、家族の意向を参考にして話し合い、計画作成担当者(主任)が介護計画を作成している。ケアプラン経過表を基に1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見ないしている他、利用者の状態の変化に応じて見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過表や日常記録簿で毎日の状態を把握している。毎朝の申し送りの際に、特に注意する点、変化、気づきなどを話し合い、常に変化に対応できるようにしている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズにできるだけ対応し、柔軟な支援に勤めている。事業所の多機能化はできていない		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとり個別の地域資源について把握はできていない。認知症が重度化している中でも、本人の持っている力をできるだけ引き出すように支援しながら、安全で豊かな暮らしができるように努めている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医としており、週に1回の訪問診療を受けられるようにしている。その他に整形外科、歯科などへの受診は、家族の希望される医療機関とし、受診の協力も得ている。職員が受診の対応をした場合、その結果は電話連絡したり、緊急性のないものに関しては、毎月の近況報告の手紙に記載している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。診療結果は電話で家族に連絡している他、事業所だより送付時に手紙で知らせている。職員間では、日常記録簿や申し送りノートで共有を図っている。緊急時や夜間は看護師に連絡し協力医療機関と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している施設の看護師に、利用者の状況を伝え、把握してもらっている。定期的な訪問の他に、要請時には迅速な対応を受けることができ、その後の対応についても、適切な指導を受けている。協力医療機関の医師への情報伝達も行なってもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添い、本人の状態を口頭や文書で詳しく説明している。早期退院に向けて、病院関係者との情報交換、家族への連絡などを随時行なっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の話をしているが、あまり詳しい話にはなっていない。その後早い段階での話し合いはできておらず、病気がわかった時点や、入院などを機に話をしている。主治医の意向や、事業所としてできることを伝えるとともに、家族の気持ちをを確認し、一緒に方向性を決めている	契約時に重度化対応や終末期対応について家族に説明をしている。重度化した場合や医療処置が必要になった場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合い他施設の移設や看取りも含めて方針を決めて共有し、可能な限り本人や家族の気持ちに沿うよう支援に取り組んでいる。看取りも行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	対応した職員が、事故やヒヤリハットの記録をし、全員で周知するとともに、改善策について検討している。急変時や事故発生時の対応、初期対応についての訓練などを行っているが、回数が少なく、実際の場面に遭遇した機会も少ないことから、実践力が身につけているとは言い難い	事故が発生した場合は、その場にいた職員がヒヤリハット報告書、事故報告書に発生時の状況、対応、再発防止策を記録し、日常記録簿にも記録して朝の申し送り時に報告し共有している。月1回の職員会議で1ヶ月分のヒヤリハット・事故報告のまとめを基に検討し介護計画に反映して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。内部研修で、法人の看護師を講師として、緊急時の対応(救急蘇生法・窒息時の対応・脱水)について実施している他、感染症(インフルエンザ、ノロウイルス)について学んでいる。全ての職員が実践力を身につけているとはいえない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する3施設合同で、火災、風水害・土砂災害、地震想定避難訓練を実施している。木与地区・宇久地区の消防協力隊に対して、火災や災害発生時の協力をお願いするとともに、訓練の中に、応援要請の流れを取り入れている。避難訓練の他に、非常連絡網伝達訓練や、地元消防団の指導・協力による放水訓練も行なっている。	隣接する3施設合同で年3回(夜間想定2回、昼夜想定1回)、火災、通報、避難訓練を行っている。風水害、土砂災害、地震想定避難訓練を2回(1回は事業所単独)利用者が全員参加し、地元の消防団の協力で行っている他、非常連絡網伝達訓練や地元の消防団の指導を得て放水訓練を行っている。法人が地域との協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、人格を尊重した言葉かけを心がけている。しかし、親しさから友だちのように話しかけたり、自分に余裕がない時に、行き過ぎた言葉を発するようなこともある。職員同士で注意し合ったり、管理者からも注意喚起がある	内部研修(接遇、権利擁護)で学び、全職員は理解して、る容赦一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管は施錠し守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ希望等を聞いたり、難しい場合は選択肢を示して決めてもらうようにしているが、認知症の重度化に伴い、それさえも答えられない場合も多くなっている。そのような時には、職員側で決定しているが、その後の様子を観察して、決定が正しいものであったか確認するように気をつけている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することはないが、読み物が好きな人、仕事に行くと外に出る人以外は、何かを希望する人はなく、座っていてもずっと眠っている状態である。これまで積み重ねてきた情報や、その人の得意としていることなどを元に、職員が考えて活動をしているのが現状である		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の望む服装を尊重しながら、季節に合っていない物や、組合せを工夫した方がよい場合などは適宜アドバイスしている。自分で着たい服を選ぶことが難しくなっているため、同じ物ばかり着ないよう、職員がみつろっている。整容に関しても、自分でできる人は少なく、随時支援している。美容院への送迎などを行なっている。行事や外出時には、早めに準備をして、特におしゃれに気を配っている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理、盛り付け、配膳、後片付けなどを行なっているが、決まった人ばかりの実施になっている。畑で野菜を育て、採れた野菜で調理をしたり、家族や地元の方からの差し入れがあった時には、美味しく食べる方法を利用者から教えてもらったり、下ごしらえ、調理などもしてもらっている。おせち料理、節分の恵方巻き、ひな祭りや端午の節句、お花見の料理、そうめん流し、クリスマス会食など、季節を感じることでできる献立の他に、忘年会、誕生会では、焼きそばが食べたい、刺身が食べたいなどの希望を叶えるようにしている。	事業所の畑で採れた旬な野菜(トマト、キュウリ、チンヤ、里芋、さつまいも、ピーマン等)や家族からの差し入れ(野菜や果物)の食材を利用し、利用者と職員と一緒に、三食とも事業所内で調理している。利用者は買い物や下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、お茶くみ、テーブル拭き、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲み会話を弾ませながら、同じものを食べている。おやつづくり(ホットケーキ、団子、柏餅、おはぎ等)、季節の行事食(おせち料理、節分の恵方巻き、ひな祭りや端午の節句、お花見の料理、玄関そばに竹を組みそうめん流し、クリスマス会食等)、松花堂弁当やオードブル、誕生会での希望食、外出時の外食や家族の協力で外食等、食事を楽しくできるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いな物、食べ物の硬さ、食べられる量など個別に対応している。摂取量が少ない場合は、計量して日誌に記載し、甘酒やプリンなどの補食で対応するようにしている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、できない人については介助している。自分で行なっている人については、どの程度きちんとできているのか把握が難しく、本人任せにしているところがある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表により、一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別にトイレ誘導などを行なっている。排泄の自立は難しいが、失禁やパット使用が増えないように対応している	排泄表を利用して、排泄のパターンを把握し、習慣を活かして、一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行いトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中に野菜を多く取り入れたり、ヨーグルトや牛乳なども活用し、一日を通して、水分が不足しないように気をつけている。毎朝のラジオ体操や、午後からも体を動かす時間をもつようにしている。自然排便を心がけているが、3名は緩下剤を常用しているのが現状である		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日曜日を除いて15時半頃から17時半頃までを入浴時間としており、毎日入浴する方2名の他、最低1日おきには入浴できるようにしている。曜日やその日入る人数を決めている訳ではないため、ある程度の柔軟性はあるが、自分から希望をする人はほとんどなく、職員が入浴の組み立てを考えて介助している状態。1名だけは長年の生活習慣から、夕食後になると、風呂があるかと聞く方がある。それに対応したこともあるが、では入浴しましょうと促すと、なかなか入らなかったり、介助にも時間がかかり、対応は困難であるため、現在は行っていない。入浴拒否があった場合は、職員が交代して対応したり、翌日に振り替えたりしている。体力的にであいの入浴が困難になった場合には、隣接している施設の機会浴を利用している	入浴は毎日可能で、15時30分から17時30分までの間、会話を楽しみながら個々に応じた入浴支援を行っている。利用者の状態に応じてシャワー浴、部分浴、清拭、隣接している法人施設の特殊浴槽などを利用し支援している。入浴剤や柚湯を使い入浴が楽しめる工夫をしている。入浴したくない場合は、職員が交代して対応したり、翌日に振り替えたりして支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に昼食後に、休息時間をとっている。自分から横になることができない人には、希望を聞き適宜対応している。日中休んでいる時間が多くなり過ぎないように留意し、適度な活動や運動をすることで、夜間の安眠につなげている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の名前、目的、用法・用量については、一覧表を作り把握している。薬ケースを使用し、服薬の際には再度名前を確認することで、飲み忘れ、誤薬のないようにしている。薬の必要性についても疑問などは看護師や医師に相談し、適宜対応している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、一人ひとりの得意とすることを開拓し、活動につなげているが、それが張り合いや喜びになっているかどうかはわからない。実施していたこと自体をすぐに忘れていたが、その時その時で一生懸命取り組んでいることは確かである	畑の草取り、水やり、芋掘り、野菜の収穫、山菜取り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、みそ汁の調理、お品書き、盛りつけ、配膳、下膳、食器洗い習字、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、パッチワーク、布でつくるのれんやポーチ、バッグ、雑巾づくり、アレンジタオル、ポケットティッシュ入れ、CDカセットを聴く、カラオケ、歌を歌う、季節の行事、地域の祭りで手芸作品（鍋つかみやバッグなど）を展示販売するなど、利用者のできることをやしたいことなどを把握して、活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ある程度は外出予定を立てて行なっているが、萩市むつみ地区のひまわり、防府市の大平山のつつじ見学などは、天候や希望などにより、予定を立てずに行くこともあった。周辺の散歩、日常の買物、定期的な利用者宅への訪問、毎月の郵便物配布を兼ねたドライブなどの他、お花見、春・秋の旅行、風船バレー大会、敬老会、小中学校運動会、秋の祭り、カラオケなどにも行っている。秋の旅行の時には、地元婦人会からボランティアとして参加協力があり、安全に楽しく行くことができた	周辺の散歩や畑仕事、週2回スーパーマーケットへ食材の買い物、福祉スポーツ大会、風船バレー大会、法人の盆踊り大会、地元の敬老会や運動会、花火大会、道の駅(阿武町、シーマート)季節の花見(桜、菜の花、ひまわり)紅葉狩りや梨狩りの他、利用者全員で春(大平山)と秋(太寧寺)のバス旅行に地元婦人会のボランティアの支援を得て出かけている。町内にある利用者宅への定期的な訪問(毎月の事業所だよりと近況報告書の配布)を兼ねたドライブ、家族の協力を得て夕食や一時帰宅、馴染みの美容院の利用など、利用者が戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの人はお金の取り扱いができず、小遣い銭は事務所、その他の金銭については家族管理としている。金銭管理ができなくても、支払などを行なうことできる利用者に関しては、食材の買物の時に、見守りのもと支払いをしてもらったり、法人のお祭りや、地域のお祭りで手芸品を販売した時には、お金のやり取りをもらうなど、お金を使うことを忘れないようにしている。2名の利用者は自分で小遣いを持っている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者もあるが、自分からかけたいとの希望はなく、かかって来た時に取次ぎは行なっている。その他も希望はないが、母の日のプレゼントが届いた時には、職員が電話をかけて本人が話をするができるように取り持っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光に配慮したつくりで、自然の光の中で心地よく生活することができている。換気や掃除には配慮している。季節の物を飾ったり、花を生けるなどの他、利用者の習字や手作り品を掲示して、見る楽しみにもつなげている	玄関には大きなツボが置いてある。リビング兼食堂は、天窓からの陽ざしで明るく、広く、面談コーナーとして大きなソファが置いてある。壁には季節感のある作品の貼り絵や行事の写真を掲示し、椅子やソファを配置し、畳のコーナーにはこたつがありゆつくりくつろぐことができるよう工夫してある。台所からは調理の音や匂いがして、家庭的な雰囲気を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し居心地よく過ごすことが出来るように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬場は畳の間にこたつを出し、くつろぎやすい環境を作っている。今にはソファを置き、テレビを見たり、お茶を飲んだりすることができるようにしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や位牌、人形や写真、オルガンなど、思い出の品を持ち込んでもらい、今までの暮らしの延長線上に現在の暮らしがあるように工夫している	ダンスやテレビ、家族写真、ぬいぐるみ、電子オルガン、CDデッキ、衣装ケース等使い慣れたものや好みのものを持ちこんで、利用者が安心して暮らすことが出来るよう、その人らしい居心地の良い空間をつくっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名前を示し、自分で確認できるようにしている。またその都度わかり易く場所を説明し、混乱を最小限に抑えるように努めている		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム であい

作成日：平成 30 年 5 月 27 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	応急手当や初期対応の定期的訓練を継続的に実施し、全職員が理解し、とっさの時に活用できるようにする。	・毎月の勉強会の中に応急手当や緊急時の対応について組み入れ、学ぶ機会をもつ ・恵寿苑看護師から抗議と実践についての指導を受ける ・初期対応に関する資料を何種類か準備しておき、職員会議や行事の後、時間のある時にすぐに学習できるようにする。 ・同様の内容でも、何度か繰り返し訓練をする	平成30年 4月1日～ 平成31年 3月31日
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。